

新潟市潟環境研究所 平成27年度第3回定例会議（概要）

日時：平成27年9月24日（木）午後3時～午後5時15分

場所：新潟市役所第1分館101会議室

■会議概要

1. 報告及び情報提供

- ・「砂丘に学ぶ」講演会について（太田研究補助員）
- ・「市民ハクチョウ・ホワイト・フェスタ」及び「市民ハクチョウ調査」について（環境政策課）
- ・上堰潟生き物調査結果について（井上研究補助員）
- ・木場潟公園（石川県小松市）について（視察報告）（大熊所長）

2. 講義

「ドンチ池について」（中原 藤雄／赤塚郷土研究会会長）

- ・ドンチ池は、西区中権寺（地籍は赤塚）にある、面積 0.3ha の砂丘湖で水源は主に湧水である。県道新潟～寺泊線、下谷内バス停から徒歩 5 分の場所にあるが、池へ近づくには道が整備されておらず、東側の墓地と南側の墓地からけもの道があるだけである。地元の者でも場所を知らない者が多い。
- ・池の周りには松、竹が茂り、水面にはスイレンが生育している。40 年程前は今ほど木々が生い茂っておらず、周りから池がよく見えた。
- ・ドンチ池には別名が多数あり、地元の人には「尼池」、「論地池」、「グランド池」、「呑池」等と呼んでいる。
- ・1745（延享 2）年の夏に発見された瓶に記録された文章の中に「中宮寺」という寺の名前があった。中宮寺という尼寺が中権寺集落にあって、寺の付近に池があったので、尼池とよばれるようになったと考えられる。
- ・中権寺の忠兵衛家と尼池（ドンチ池）の間に小高い山があり、村人はこの山を尼池山と呼び、池の周辺一帯を「池山」と呼んだ。池山は高速道路建設時に砂を使うため削られ現在は墓地になっている。
- ・池の東側は浅瀬で、かつてはポンプ小屋がたち、池の水を周りの田の用水として使っていた時期もあった。今は小屋の土台だけが残っている。浅瀬の部分は昔、馬の脚洗い場だった。
- ・子どもの頃（昭和 20 年代）は池がプール代わりで、学校が終わると毎日のように泳ぎに行った。水深が深いため足がつかない。池の真ん中に生えている木を目指し、必死で泳いだ記憶がある。地下水だから、当時は底がきれいに見えた。
- ・昭和中期頃に池の水を干す話が持ち上がり、当時の村議会議員らが中心となりポンプによる排水を試みた。しかし、一定量までは排水できたが、それ以上は水位が下がらなかった。
- ・茸取り、薪取り（松枝、松の葉、松かさ）、魚釣りや雪遊び、散策の場として親しまれた。内野、坂井輪、中野小屋地区から学校の遠足で子どもたちが来たこともあった。かつて、池の西側に別荘が建っていた。池に稚魚を放流したり、高台に東屋を建てたり、美観のために力をいれた時期もあった。
- ・一方で、尼池（ドンチ池）には様々な伝説や幽霊話がある。1925（大正 14）年に中権寺の子どもたちが尼池の側で狐に化かされたという話がある。昭和初期まで、池山には狐が生息していた。1927（昭和 2）年に尼池（ドンチ池）で亡くなった女性の霊が池山にでる、という噂が広まった。他にも人魂を見たという噂話もある。池山にはふくろうが生息していた。墓地や火葬場近くでリンが燃えている中、ふくろうの羽にリンが燃え移って飛びまわる姿が、火の玉に見えたものと推測される。それが幽霊伝説と結びついて伝わったものと考えられる。

「先人の残してくれた宝 北山池」(清野 誼／北山池公園の自然を愛する会会長)

- ・北山池は江南区の北山池公園内にある。公園面積は約 3.6ha、池面積約 1.6ha、周囲約 600m である。
- ・御衣黄 (みどりの桜) の咲く公園として 4 月には見物客で賑わう。また、貴重なアサザが 3 カ所に生息している。「北山池公園の自然を愛する会」は御衣黄やアサザの現地説明会や公園の草取りなどの活動を行っている。
- ・北山池は新潟第一砂丘の間にできた砂丘湖で、砂丘列の上に集落がある。かつては、砂丘の麓に北山池 (兄弟池)、丸山の池、茗荷谷^{みょうがたに}の池、松山の池 (稚児池) が並んで存在した。各々の池には高さ 10m～20m 程度の松林に囲まれた砂山が連なっていた。
- ・池や砂山は各集落の入会地、共有地として地域の生活環境に密着し、無くてはならないものだった。子どもの頃、山の畑で野菜を作り、大人たちが池で水を汲んで、砂山を上り共有地の畑に水をやっていた。松林の松葉や枝を燃料にしたりした。
- ・昭和 30 年代以降、農地整備などで共有地等の必要性が薄れ、池や砂山は消滅した。宅地造成や道路整備のために砂の需要が増加し、砂山は土建業者に売られ、池は建設業者等のごみ捨て場になった。
- ・共有地を守るため、昭和 55 年に北山池共有地組合が池をきれいに整備した。そのような経緯もあり、北山に住む者として「北山池は先人の残してくれた宝」だと思っている。
- ・北山池はひょうたん池、兄弟池とも呼ばれ、小さいほうが兄池、大きいほうを弟池と呼んでいた。小さいほうをランドとして整備し、大きいほうを池のまま残した。
- ・昭和 56 年に北山池 (弟池) 2.6ha とランド (兄池) 0.4ha を新潟市に寄贈し、1984 (昭和 59) 年に新潟市の北山池公園として開設。北山池畔に共有地組合員による寄贈記念碑が建つ。
- ・現在の北山池の水は亀田郷土地改良区の農業用水。春から夏にかけては流入があるが、秋以降は流入がない状態。流出は排水口を通じて新潟市の排水溝に流れこむが、排水口が高い位置にあるため池の上水だけが排水される。雨が降ると湖面水位が上昇する。排水管を通して雨水路に排出される。
- ・池の底に泥が溜まっている。水深約 1.5m で、泥の深さはその 8 割程度。水質改善のためには長い目でみればヘドロの除去が必要である。
- ・湧水、流入水などが無いため水質の悪化がみられる。市は噴水による曝気^{ばっき}をおこなっている。北山自治会は井戸ポンプの設置を要望したこともあるが却下されている。
- ・池のまわりは鉄の矢板、コンクリートの護岸のため、マコモやヨシは生えていない。再整備の時は、池の自然を取り戻すためにもとに戻したい。
- ・ここ 2～3 年でハスの花が増えてきた。平成 2 年頃は池の水面 85 %位がハスの花で埋まった。平成 5 年頃に全滅。ヒシも広がってきているが、現在、ヒシの実を採って食べる人はいない。
- ・ヘラブナ釣りの客が日常的に 20 人程度おり、釣りのできる池として憩の場となっているが、水質悪化につながる撒き餌の問題について懸念している。
- ・池の魚は放流したヘラブナが主である。平成 20 年に業者によりブラックバスが放流された。駆除を試みたがまだ生息しており、ブルーギルも含め、外来種の対策をしなければいけない。以前に生息していたエビや小魚はほとんどいない。
- ・北山池の主は「たん貝」との伝説がある。60 年以上前は大きな貝がたくさんいたが、今は少ない。コイ、ライギョ、エビ、カニ、亀もほとんどみられない。
- ・今後の北山池の課題としては、池の水質改善、ヘドロの除去、池の周囲のコンクリート護岸をより自然なかたちに整備し直すこと、釣り客の撒き餌の問題への対策や外来種の駆除があげられる。